

人口増対策について

一般質問



植田 通孝
(21 政会)

問 市長施政方針の結びの一節に共感を覚え2度読み返した。「5万人都市再生は高い目標であり至難の業です。しかし、私は現状維持は、後退に等しいと思っています。常に変化し続ける社会においては、現状の施策は常に古びて行くのです。行政も変化を恐れず果敢に変革していくことが、未来に続く加西市を築くために必要なことです。前例を踏襲することで、なんとかなった時代は、すでに過去です。加西市の未来に、本気が求められています。地域再生のため、子どもたちの未来のため、市民の皆様と共に全身全霊を掛け

て変化に挑んでまいります。市民の皆様から託された私の責任を果たします」という一節だが、精神論としてやっと市長として立つべきスタートラインの立ち位置に立たれたと認識する。活力ある加西市を未来につなぐために、本気で全身全霊を傾注して変化に挑戦していただきたい。

残るは職員の意識が、いつになったら市長のこうした境地に達し、本気で加西市の未来のために行動するのにかかっているのではないかと考える。職員のやる気を喚起し、心を一つにして組織を強化し頑張っていただきたい。

そこでお尋ねするが、新しい市長のもと、新体制になって職員は本気で知恵を絞っているのか。

答 加西市が直面している多くの問題、課題について、一人ひとりの職員が共通に理解し、全員でその対策、対応に取り組んでい

くことが非常に重要であると考えています。本気で知恵を絞るためには、その状況を正確に把握し、事の重大性、深刻性を理解できているかということが出発点になると考えます。先日庁内組織として人口増対策本部を設置し、現在その配下に人口増対策プロジェクトチームの設置を急いでいます。職員が自発的に活動する環境をつくり、職員総出動で知恵を結集していきます。

■その他の質問項目

- ・市内産業の活性化策
- ・グリーンエネルギー地域推進構想
- ・加西市インターチェンジ周辺の土地利用計画
- ・旧市街地の狹隘道路の整備計画

幼稚園・保育園の統合と幼児園構想について

一般質問



三宅 利弘
(21 政会)

問 加西市の幼児園構想は比較的早くから取り組まれ、平成16年には賀茂幼児園が開設、その後徐々に進みつつあるが、北条校区、九会校区などはいまだに進んでいない。幼児園を立ち上げる際には保護者の理解を得ることが重要であり、そのためには教育理念を優先させ、保護者のニーズにこたえていくことが大事であると考えてるが、

①幼児園としての現時点での取り組みと方向性はどのようになっているのか。

②幼児園教育の特徴とメリットは。

③九会幼児園の開設についてどのように考えているのか。

答 ①加西市で先行している賀茂幼児園の検証により、保育所と幼稚園の両方の機能を有する100人規模の幼児園に集約していくことが最終的な方向性で、各園の条件に合わせて保護者や地域の合意を得られたところから、幼保一体施設である幼児園に円滑に移行させていく方針です。

②加西市では、ゼロ歳児から5歳児までの幼児の発達に即して幼児園カリキュラムを作成しています。幼児園にすることによって、幼稚園における教育部門と保育園における保育部門の2つをあわせ持った幼稚園教育要領と保育所の保育指針の両方を兼ね備えた保育

を行うことによって長期的な視野を持って保育ができます。最大のメリットは、ゼロ歳から5歳までの子どもたちを同じ施設に置くため比較的簡単に4、5歳児を対象とした2年間の幼稚園教育ができます。

③現在九会地区には3つの園があります。理想としては、最終的に1つの幼児園にすることが教育委員会としての方向性です。具体的には、地域で要望があれば保護者、地域の方の意見を伺う機会を設け、新しい園舎が建設されるまでの過渡期として施設分離型の幼児園にしていく用意はしています。

■その他の質問項目

- ・人、農地に関する新施策